

グリーンな栽培体系への転換サポート事業を活用した栽培暦（きぬむすめ）

令和7年7月9日

農事組合法人 神出アグリ
神戸市農業活性化協議会

月 旬	4月 下旬	上旬	5月 中旬	下旬	上旬	6月 中旬	下旬	上旬	7月 中旬	下旬	上旬	8月 中旬	下旬	上旬	9月 中旬	下旬	上旬	10月 中旬	下旬
作業			播種	衛星を活用した 土壌診断	元肥・代かき	苗箱防除	田植	除草剤	(除草剤)		出穂20日前 衛星を活用した 葉色診断	穂肥	あぜ草刈り	出穂後5～10 カメムシ類防除				収穫	
水管理						やや深水		浅水	中干し		間断灌水		たん水		間断灌水			落水	
栽培のポイント	・ 根の張り を良くす る	・ 肥料の 散布を 行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う	・ 1月2回の 追肥を行う

＜施肥設計＞

肥料名	成分	慣行栽培 元肥	穂肥
こうべハーベスト	18-13-13	40kg	
NK-C3号（流し込み施肥）	18-0-16		0kg

衛星を活用した土壌診断(可給態窒素量12以上)・葉色診断(正規化植生指数NDVI0.6～0.7)により肥量調整

元肥	穂肥
32kg	
	(10～15kg)

元肥はSagriを活用し、可給態窒素量12以上の場合、減肥
穂肥はxarvioを活用し、葉色(正規化植生指数NDVI0.6～0.7)の場合、追肥

＜防除体系＞

☆自家育苗の方のみ

	農薬名	使用量	対象病害虫
苗箱防除	ルーチンエキスパート箱粒剤	50g/箱	いもち病、紋枯病、白葉枯病、1次ミズゴケ、アブラムシ、ウカ類など

	農薬名	希釈倍数・使用量	使用時期
カメムシ類防除	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで
	または		
	スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫7日前まで
	または		
	スタークル顆粒水溶剤	2000倍 (散布液量60～150ℓ/10a)	収穫7日前まで

*使用適期は出穂後5～10日前後

＜除草剤＞

農薬名	使用量	使用方法
キマリテ1キロ粒剤	1kg/10a	移植時/移植直後～ノビエ3葉期 (但し移植後30日まで)
または		
キマリテフロアブル	500ml/10a	移植時/移植直後～ノビエ3葉期 (但し移植後30日まで)
または		
キマリテジャンボ	300g/10a パック10個	移植直後～ノビエ3葉期 (但し移植後30日まで)

臨機防除

農薬名	使用量(希釈水量)	使用時期
バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	500～700ml/10a (70～100L/10a)	移植後15～55日まで (但し収穫50日前まで)

農薬名	使用量	使用方法
エンペラー1キロ粒剤	1kg/10a	移植時/移植直後～ノビエ3葉期 (但し移植後60日まで)
または		
エンペラーフロアブル	500ml/10a	移植時/移植直後～ノビエ3葉期 (但し移植後30日まで)
または		
エンペラー豆つぶ250	250g	移植直後～ノビエ3葉期 (但し移植後60日まで)

または

エンペラージャンボ	小包装(パック) 10個(250g)	移植直後～ノビエ3葉期 (但し移植後30日まで)
-----------	-----------------------	-----------------------------

臨機防除

農薬名	使用量(希釈水量)	使用時期
クリンチャーバスME液剤	1000ml/10a 70～100ml/10a	移植後15日～ノビエ5葉期 (但し、収穫50日前まで)

営農アプリの土壌分析を活用した可給態窒素に基づく施肥設計による
環境負荷低減マニュアル

令和7年7月9日
神戸市農業活性化協議会

1. はじめに

化学肥料の過剰使用は、環境負荷やコスト増加の一因となる。営農アプリによる分析から可給態窒素（注1）に応じた施肥設計を行うことで、化学肥料使用量の低減につなげる。

注1 土壌中の微生物の働きで植物に利用される形態に変化した有機性の窒素

2. 営農アプリ（Sagri、xarvio）の技術の概要

- ・衛星データや AI を活用し、生育状況・土壌解析データを用いることで圃場の状態を把握
- ・スマートフォンや PC から確認したい圃場を登録することで、すぐに圃場の状況やデータの閲覧が可能

3. 営農アプリの利用方法

ステップ1 圃場登録（Sagri、xarvio）

- ・確認したい圃場の位置情報（地番）を入力し、登録
- ・登録した圃場に作物の種類・品種などを入力

ステップ2 生育状況の確認（Sagri、xarvio）

- ・「植生」の画面では圃場一覧に搭載されている登録した農地を選択すると、圃場の位置まで地図が移動し、圃場の生育状況を閲覧（Sagri）
- ・AI により、生育マップが作成され、圃場の生育状況を閲覧（xarvio）

ステップ3 土壌解析結果の確認（Sagri、xarvio）

- ・「土壌」の画面では圃場一覧に搭載されている登録した農地を選択すると、圃場の位置まで地図が移動し、可給態窒素量（mg/100g）などの土壌解析結果を閲覧（Sagri）
- ・2年に1度、登録した圃場の土壌診断を実施し、可給態窒素量を測定（xarvioのみ）

ステップ4 施肥設計（Sagri、xarvio）

- ・閲覧した土壌解析結果から、可給態窒素量が12以上の圃場は6月上旬に化学肥料の使用量を慣行栽培より低減（Sagri）
- ・閲覧した生育マップから、8月上旬に葉色診断結果が正規化植生指数 NDVI 0.6～0.7の場合、追肥（出穂15～10日前に窒素量1～1.5kg/10aを流し込み施肥する）（xarvio）

※作業体系は別紙栽培暦を参照

ステップ5 効果測定と改善（Sagri、xarvio）

- ・収量や生育状況を記録
- ・翌年以降の施肥設計に反映

※Sagri、xarvioによる生育診断は現在実証中につき、実証結果に伴い、関係する文章や数値が変更となる場合があります。

4. 期待される効果

- ・可給態窒素量測定結果による化学肥料使用量の低減（Sagri）
- ・葉色診断による追肥作業の省力化（Sagri、xarvio）

5. 利用に際しての注意点

葉色診断にあつては、衛星画像は天候状況で欠測や日により差が出ることもあるため、複数回確認することを推奨（欠測期間が続く場合は、従来の穂肥診断を行う）